

エナガ *Aegithalos caudatus* の本州・北海道産 2 亜種における形態的比較

○新鞍彩子（京都大学・理・動物系統）

エナガには国内で 4 亜種が認められており、北海道には亜種シマエナガ *A.c.japonicus*、本州には亜種エナガ *A.c.trivirgatus*、九州・四国には亜種キュウシュウエナガ *A.c.kiusiuensis*、対馬には亜種チョウセンエナガ *A.c.shimokoriyamae* が繁殖分布するとされている。本州以南に生息する 3 亜種は頭部に明瞭な黒色の眉斑をもつが、北海道のシマエナガは眉斑を持たず頭部が白色であるとされている。

しかしながら、演者が予備調査を行ったところ、山階鳥類研究所所蔵の本州長野県産の標本の中には眉斑をもたない個体が 1 個体含まれていること、北海道産の標本の中には眉斑をもつ個体が含まれていることが明らかになった。長野県産の個体はシマエナガの迷鳥あるいは亜種エナガの白化個体である可能性が考えられ、北海道産の眉斑を持つ標本も個体変異か、もしくは亜種エナガとの交流の可能性があるのではないかと推測される。これらを検討するため、これらと亜種エナガ、シマエナガの形態測定値を用いて解析を行った。

形態計測部位は、鼻孔前端からの嘴長、嘴幅、嘴高、跗蹠長、自然翼長、最長風切羽長、最長尾羽長、中央尾羽長である。亜種エナガ雄 45 体、雌 36 体、シマエナガ雄 6 体、雌 5 体の成鳥を解析に用い、これと長野県で採集された眉斑のない個体（標本ラベルではシマエナガと同定されており、性不明）、わずかに眉斑がみられた北海道産の 3 体（すべて雌）について比較した。解析には、森林総合研究所、東京国立科学博物館、山階鳥類研究所に所蔵されている標本を用いた。

亜種エナガとシマエナガ間で 8 形質を用いた正準判別分析を行った結果、亜種エナガとシマエナガはほぼ明確に区別された。残念なことに、長野県産の眉斑をもたない個体については、性不明のためはっきりした結論は得られなかったが、この標本が雄であれば亜種エナガ、雌であればシマエナガと判定された。今後、雌雄差を示す形質を探すなどで性別を判定する必要がある。もし雄であるならば亜種エナガの白化個体であり、雌であるならば迷鳥のシマエナガであるといえるだろう。また眉斑がみられた北海道産の標本についても、1 標本はシマエナガと形態的に一致したが、残り 2 標本はエナガともシマエナガとも違う形態を示すという結果になった。1 標本がシマエナガと形態的に一致したことから、個体群内変異がまず考えられる。しかし 2 標本がまったく異なった形態を示すことから、コウライシマエナガ *A.c.caudatus* などの別亜種の侵入、亜種エナガなどとの交雑なども考えられる。これを検証するためには、さらに多くの個体の測定や DNA 解析によりさらにデータを集める必要がある。